

シリコンバレー現地学習(9/8~12)報告

■「イノベーションとは？」を考え始めるキッカケを持つ

- ①シリコンバレー(SV)のベンチャー企業(VC)訪問とそこで活躍する「成功者」から直接学ぶ
- ②イノベーション人材の供給拠点 Stanford大、UC Berkeley訪問、その雰囲気を感じる

■ 研究成果の事業化とそれを実現するコンセプト、ヒューマンネットワーク、スピード感の重要性を学ぶ

9月 8日:八重樫氏(Nanogram社)より自己紹介を兼ねてSVとVCの概要説明。協力者、時流、スピード感の重要性のについてのお話と意見交換

9月 9日:InfiniteBio社訪問 Wagnes氏より同じ建屋にあるラボの紹介と見学。二村氏より、ご自身の経歴紹介を兼ねて研究成果の事業化に向けた取組のポイントの解説。昼食を兼ねた懇談で踏込んだ質疑応答、米国のR&D状況についての意見交換
Stanford大CDR訪問 Cutkoskyより教室を巡りながらグループワーク、インダストリアル経験を活用して顧客ニーズを創出するデザインシンキングの教育内容について紹介

9月10日:C3nano社訪問 CTOを務めるAjay氏より技術の概要と実験室の見学。創設者の神部氏よりVCの醍醐味や最新のVCの取組を紹介、イノベーションに対する心構えを教授いただく。

UC Berkeley College of Chemistry Francis 教授より化学教室全体の活動紹介、Hartwig教授より触媒関係の研究の紹介 Ramesh教授より最新の研究成果についての紹介

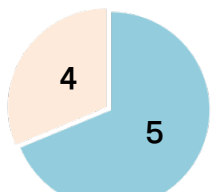
CITRIS訪問 情報産業と物質科学、エネルギー分野の融合を図るセンターの紹介と教室の見学

- ・映像や記事の中の世界であったSVで良い意味での野心と上昇志向を目の当たりにして、VCという新しい選択肢を知った
- ・世界中から人が集い、切磋琢磨し、意見を戦わせ、研究するという雰囲気を感じることができてとても刺激になった
- ・VC訪問で、学術以外のことが沢山見えて来た。今回の訪問はこれからの人生の参考になる大事な経験となった
- ・二村さんの経歴から、人生はタイミングや運で左右される事が多いが、そういった機会をキャッチできるアンテナの重要を実感
- ・学生が自由にアイデアを出していく環境とそれをサポートするVCの図式は理想的に思えた
- ・M1の段階で海外の企業や大学について知ることができたことは自分にとってとても重要であった
- ・多くは日本でも聞くことのできる話であったか知れないが、現地の空気の中で聞いた事で響く言葉が多くあった
- ・大学での研究は教員と学生、学生間の非常に密なディスカッションの上で行われていると感じた
- ・もう少し現地で同年代の学生との交流を持つ機会が欲しかった

活動内容

履修生の感想

見学の評価



5:大変勉強になった
4:参考にはならない

